

〈資料〉

## 本学学生の学修状況の経過分析（2014年～2018年）

中 村 泰 治 \*

### 要約

本学学生を対象に、これまで3回、学修状況に関する調査を行ってきた。今回は、過去3回の調査結果を振り返って、この間の本学学生の学修状況を経過分析し、その結果を報告する。結論は、本学学生の学修状況は、一部に多少の改善はみられるものの、基本的に変わっていない——単位取得のための勉強はするが、それ以外の勉強はしない——ということであった。今後、情報技術の活用を含め、学修習慣が身につくよう指導を強化していく必要があるだろう。

キーワード 学修状況、学修習慣、情報技術

### 目次

1. はじめに
2. 調査の実施概要
3. 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（1）
4. 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（2）
5. 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（1）
6. 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（2）
7. まとめと提言

## 1. はじめに

本学学生の学修状況（学修時間及び学修行動の実態）について、IR委員会は、2年ごとに過去3回（2014年度、2016年度、2018年度）調査・分析を行い、その結果を私（委員長）が報告してきた<sup>[1]</sup>。しかし、今年度（2020年度）は、コロナ禍のために学生は極めて変則的な学修を余儀なくされており、従来の延長上で調査・分析することは困難であった。そこで、今回は、これまでの結果を振り返りつつ、本学学生の学修状況をいわば経過分析（傾向分析）し、その結果を報告することにした。

本稿がこれまでの調査・分析に一区切りをつけ、次年度（2022年度）からのニュー・ノーマルな学修状況における調査・分析に対し、有益なステップになることを期待したい<sup>[2]</sup>。

## 2. 調査の実施概要

過去3回の調査の実施方法等の概要は、基本同じで、以下の通りであった。

- ①期 間：各年度の7月の2週間。
- ②対 象：本学（浦和大学）の1年生及び3年生の全員。
- ③方 法：無記名式アンケートの配布と回収。
- ④内 容：学修時間及び学修行動に関する実態調査。

## 3. 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（1）

質問は毎回ほぼ同じで全部で14問あった。内容的には大きく「授業と密接な学修」に関する質問（問1～問9）と「それ以外の学修」に関する質問（問10～問14）に分けられる。

まず、1年生を対象にした前者の質問と回答について経過分析し、報告しよう。

### 問1. あなたは1週間に何コマの授業を受けていますか。

これは最も基本的な学修時間である授業時間についての質問である。1年生は、過去3回とも、90%以上が週10コマ程度かそれ以上の授業を受けている。本学1年生は一貫して授業を受けることに積極的な姿勢をもっているといえよう<sup>[3]</sup>。

### 問2. 受けている授業への出席率は平均すると何%位ですか。

授業を受けるといっても、出席率が低いと問題である。それゆえ、これはいわば問1の充実度を問う質問である。各回とも1年生は90%近くが、出席率は80%以上と回答している。本学は出席管理に厳しいとはいえ、出席率は極めて高い。本学1年生の授業を受ける姿勢には、一貫して内実が伴っているといえよう。

### 問3. 授業を欠席する主な理由は何ですか。

この質問はもともと欠席の原因を探り、それを解消して出席率を高めようと意図したものである。毎回1年生は半数近くが「朝寝坊」を挙げている。次に多いのは「その他」であるが、これは交通トラブルなどではないかと推測される。欠席の最大の理由が「朝寝坊」というのは、青春기에特有の生活習慣に根差すものであって、変えるのは難しいかも知れない。

### 問4. あなたは受けている授業科目のシラバスを読んでいますか。

シラバスは授業の目標や計画を示したものであり、予習・復習のガイドになるものである。これを読んでおくことは授業を受ける前提となる。ところが、18年度でも50%程度の学生が「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」をマークしている。14年度、16年度と比べると、シラバスを読む学生の割合は数ポイントずつ増えているが、まだまだ学生に対しシラバスの重要性を強調する必要があるといえよう。

### 問5. 指定された教科書がある場合、それらを読んでいますか。

教科書を読むことが予習・復習の基本であり、授業の理解を高めるものであることは言うまでもない。ところが、18年度に「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は合せても50%に満たない。逆に40%以上の学生が、「あまり読んでいない」や

「ほとんど読んでいない」と回答している。14年度、16年度に比べると数字は多少改善しているとはいえ、教科書を読む学生をもっと増やす必要があるだろう。

**問6. 先生の指定する参考書・参考文献がある場合、それらを読んでいますか。**

これは前問とほぼ同じ質問であるが、数字は前問の回答よりも悪い。過去3回とも「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は30%に満たず、逆に60%以上の学生が「あまり読んでいない」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

○小括：以上の回答結果をまとめると、本学学生は「授業にはよく出ている」が「授業の理解を深める努力はあまりしていない」ということになるであろう。

**問7. 授業の予習・復習をしていますか。**

この質問の回答は上記の小括を裏づけるものである。すなわち、18年度に「ほとんどの科目で予習・復習をしている」と「だいたいの科目で予習・復習をしている」をマークした学生は合わせても15%程度に過ぎない。逆に70%程度の学生が、「あまり予習・復習をしていない」と「ほとんどの科目で予習・復習をしていない」と回答している。

この数字は14年度や16年度よりも数ポイントよいが、本学学生の多くは、依然「授業に出て、先生の話聞いて、済み」としている、といえよう。

**問8. あなたはこれまでにオフィスアワー（指定された時間に先生の研究室を訪ねること）を何回くらい利用しましたか。**

授業でよく分からないと思った時や授業の内容をもっと勉強したいと思った時、オフィスアワーを利用することは効果的である。しかし、徐々に改善しているとはいえ、18年度でも80%近くの学生がオフィスアワーの利用は「1～2回」ないし「ゼロ回」と回答している。ただ、本学では教員に学生への個人面談を義務付けているので、これはオフィスアワーを利用していないということであっても、教員の研究室を訪ねていないということではない。それにしても、他大学もほぼ同じとはいえ、授業について質問に行かない傾向は続いているといえる<sup>[4]</sup>。

**問9. オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。**

これもオフィスアワーを利用しない原因を探り、その解消によってオフィスアワーの利用を促そうという意図をもった質問である。14年度、16年度と同様、18年度でも40%程度の学生が「オフィスアワーをよく知らないの」と回答していて、圧倒的に多い回答割合である。高校にオフィスアワーがないせいかも知れないが、オフィスアワーのことは今後一層説明する必要があるだろう。

#### 4. 1年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（2）

次に、調査の後半部分、つまり「授業以外の学修」について尋ねた質問と回答について経過分析し、報告しよう。

**問10. あなたは授業時間とは別に、平均して1週間に何時間くらい授業（単位取得）に直接関係する勉強（授業の予習・復習やレポート・宿題の作成など）をしていますか。**

18年度でも30%以上の学生は「ほとんどしない」と回答し、50%程度の学生が「1～2時間」ないし「3～5時間」と回答している。合わせると80%以上の学生が週5時間以下、つまり1日1時間も勉強していないことになる。14年度、16年度と同じ嘆きであるが、学生は勉強していないという数字である<sup>[5]</sup>。

**問11. 授業で出される課題（レポート作成や宿題など）で調べ物をする時、主な情報源として何を利用していますか。**

これは最近の学生の勉強方法を尋ねる質問である。18年度には、30%程度の学生が「先生の指定した教科書・参考書」を挙げているものの、それ以上に50%程度が「インターネットの情報」を挙げている。この割合は次第に増加しており、課題を仕上げるのに、図書館で文献を探すという方法はインターネットで情報を検索するという方法に、確実に取って代わられつつあるといえよう。

**問12. 学期末試験の時、1科目当たり平均何時間くらい勉強する予定ですか。**

まだ定期試験を受けていない1年生には酷な質問であるが、18年度は50%程度が「2時間ないし3時間程度」と回答して、30%以上が「4時間ないし5時間以上」と答えている。数字は14年度、16年度より若干改善しており、単位取得に対する熱意は増していると感じられる。

**問13. あなたは平均して1週間に何時間くらい自主的な勉強（授業（単位取得）に直接関係しない・しなくなった勉強で、授業で興味を持つようになった勉強や資格・就職のための受験勉強など）をしていますか。**

1年生としては当然かもしれないが、過去3回とも90%以上が「1～2時間程度」ないし「ほとんどしない」と回答している。ただ、これも過去3回と同様、「8～10時間」や「11時間以上」と回答した学生がおり、少数であるが、1年次から目的意識を持って学修している学生は確かにいるのである。

**問14. 授業時間以外はどこで勉強していますか。**

18年度は、50%以上が「自分の家」や「自分の部屋」と回答しており、「大学の図書館」や「大学の自習室」は25%以下である。14年度、16年度の回答と比べると、1年生では、大学は授業を受ける場で、自分で勉強する場ではない、という傾向が強まっているようである。

## 5. 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（1）

次に3年生について見てみよう。3年生の回答は、彼らが1年生であった時からどう変化したかを示す数字ともいえる。

**問1. あなたは1週間に何コマの授業を受けていますか。**

過去3回とも、3年生でもほとんどが10コマ程度の授業を受けている。1年生同様、3年生にも一貫して授業を受けることに積極的な姿勢を読み取ることができる。

**問2. 受けている授業への出席率は平均すると何%位ですか。**

3回とも、70%以上の学生が「80%以上」と答えている。1年生に比べると低いが、そ

れでも出席率は高いといえる。授業を受けることに積極的な姿勢は続いているといえよう。

### 問3. 授業を欠席する主な理由は何ですか。

1年生と同様、約50%の学生が「朝寝坊」を挙げ、次に多いのも「その他」である。しかし、過去3回とも、3年生では10%程度の学生が「授業内容がつまらない」や「授業が難しい」ことを挙げている。上級生の欠席者が多い授業担当者にとっては、反省材料になる数字である<sup>[6]</sup>。

### 問4. あなたは受けている授業科目のシラバスを読んでいますか。

3年生でも80%前後の学生が「あまり読んでいない」「ほとんど読んでいない」をマークしている。これは過去3回とも同じで、3年生になっても依然シラバスの重要性を理解していないようであり、繰り返しシラバスの重要性を説明する必要があるだろう。

### 問5. 指定された教科書がある場合、それらを読んでいますか。

過去3回とも、1年生とほぼ同様で、3年生も「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は合せて20%程度である。80%近くの学生が「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

### 問6. 先生の指定する参考書・参考文献がある場合、それらを読んでいますか。

この回答は前問よりも数字が若干悪い。「すべて読んでいる」と「だいたい読んでいる」をマークした学生は20%に満たず、80%以上の学生が「半分程度読んでいる」から「ほとんど読んでいない」と回答している。

○小括：以上の回答結果をみると、3年生になっても、「授業に出席しても、その理解を深める努力はしない」という姿勢は続いているといえよう。

### 問7. 授業の予習・復習をしていますか。

この質問の回答は上記の小括から予想できる。すなわち、18年度でも、「ほとんどの科目で予習・復習をしている」と「だいたいの科目で予習・復習をしている」をマークした学生は合わせて10%未満である。他方、80%前後の学生が、「あまり予習・復習をしていない」と「ほとんどの科目で予習・復習をしていない」と回答している。「授業に出て、先生の話聞いて、済み」という態度は基本的に続いているのである<sup>[7]</sup>。

ただ、14年度、16年度の数字と比べると、学生の学修時間・学修態度は数ポイント程度であるが、増加・改善の方向にシフトしている。

### 問8. あなたはこれまでにオフィスアワー（指定された時間に先生の研究室を訪ねること）を何回くらい利用しましたか。

18年度は、50%以上が「1～2回」ないし「ゼロ回」と回答している。授業について相変わらず質問に行っていないようである。しかし、14年度や16年度と違い「ゼロ回」と回答する学生がいなかった。オフィスアワーは多少とも認識され始めたようである。

### 問9. オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。

18年度の3年生になっても20%程度の学生が「オフィスアワーをよく知らないの」と回答しているのには驚きである。しかし、14年度、16年度で30%を超えていたことを思え

ば、ここでもオフィスアワーの浸透ぶりは確認できる。

なお、18年度に、利用しない理由として「先生がいないことが多いので」と回答した学生が15%程度いた。これは、一部の教員に問題行動があるのかも知れない。

## 6. 3年生の学修時間及び学修行動に関する調査結果と経過分析（2）

次に、後半部分である「授業以外の学修」に関する質問と回答について、経過分析を報告しよう。

**問10. あなたは授業時間とは別に、平均して1週間に何時間くらい授業（単位取得）に直接関係する勉強（授業の予習・復習やレポート・宿題の作成など）をしていますか。**

18年度では、3年生も40%程度の学生が「ほとんどしない」と回答し、それと同程度以上の学生が「1～2時間」や「3～5時間」と回答している。合わせると90%程度の学生が週5時間以下、つまり1日1時間以下しか勉強していないことになる。14年度、16年度より数ポイント改善しているとはいえ、3年生になっても、授業時間以外は勉強しないという状態は続いているのである。

**問11. 授業で出される課題（レポート作成や宿題など）で調べ物をする時、主な情報源として何を利用していますか。**

3年生も、25%程度の学生が「先生の指定した教科書・参考書」を挙げているが、約50%の学生が「インターネットの情報」を挙げている。1年生と同様、この数字は毎回上昇しており、ネットで情報を得る勉強方法が普及する傾向にある。

**問12. 学期末試験の時、1科目当たり平均何時間くらい勉強する予定ですか。**

18年度で、約半数が「2時間」ないし「3時間程度」と回答しており、20%近くが「4時間」ないし「5時間以上」と答えている。この数字は14年度、16年度より若干向上しており、単位取得に対する熱意が感じられる数字である。

**問13. あなたは平均して1週間に何時間くらい自主的な勉強（授業（単位取得）に直接関係しない・しなくなった勉強で、授業で興味を持つようになった勉強や資格・就職のための受験勉強など）をしていますか。**

3年生になれば、各種の資格取得や就職を意識した勉強を始められると思われるが、毎回80%近くが「1～2時間程度」ないし「ほとんどしない」と回答している。目的意識を持って学修をする学生はごく一部であり、大多数は依然そうではないということである。

**問14. 授業時間以外はどこで勉強していますか。**

毎回、50%以上が「自分の家」ないし「自分の部屋」と回答しているが、1年生と違い「大学の図書館」や「大学の自習室」と回答した学生も20%程度いる。空き時間などを利用して課題（卒論を含む）や宿題など授業に密接に関係した勉強を大学でしているのではないかと推測される。3年生では1年生と違った学修態度が生じているとみることもできよう。

## 7. まとめと提言

（1）1年生の学修状況の経過をみると、概ねこう言えるであろう。

- ①1年生は一貫して授業を受けることに熱心であり、単位取得にも熱意を持っている。
- ②しかし、シラバスはほとんど読まないし、教科書・参考書もあまり読まない。予習・復習はしないし、オフィスアワーもほとんど利用しない。授業の理解を深めることに熱心ではないのである。
- ③したがって、「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」という結論は、多少の改善があるものの、過去3回とも基本的に変わっていないといえよう。

（2）3年生の学修状況については、概ねこう言えるであろう。

- ①1年生同様、一貫して授業を受けることに熱心であり、単位取得にも熱意を持っている。
- ②もっとも、1年生より若干マシであるが、予習・復習はほとんどしないし、授業の理解を深めることにもあまり熱心ではない。
- ③したがって、「単位取得のための最低限の勉強はするが、それ以上はやらない」という1年生と同じ学修態度が、一部に改善の数字があるものの、過去3回を通じ基本的に続いているといえよう。

### （3）当面の提言

学修する態度の涵養というのは、いわば勉強の習慣づけであり、一朝一夕にはできない。しかし、そうだからといって、努力をあきらめては教育の放棄につながるだろう。数字の改善傾向を励みに、教員は継続して努力するしかないのである<sup>[8]</sup>。

すなわち、課題を与えて文章の作成を奨励したり、文章をもとにプレゼンテーションする機会を増やしたり、情報技術の習得、習熟を兼ねて、これまで以上に「学修態度の涵養」に努め、学修状況を変える取り組みを積み重ねていく必要があるといえよう。

## 注

- [1] 2014年度の調査結果は、拙稿（2015年）「本学学生の学修状況について」（浦和大学・浦和大学短期大学部『浦和論叢』第52号）として、2016年度の調査結果は、拙稿（2017年）「本学学生の学修状況の分析」（同上、第56号）として、そして2018年度の調査結果は、拙稿（2019年）「本学学生の学修状況の調査・分析」（同上、第61号）として発表した。
- [2] 「学習」ではなく「学修」というのは、「大学設置基準上、大学での学びは『学修』」であるからである。また、「大学での学びの本質は・・・事前の準備、事後の展開などの主体的な学び」であるから、「学習」ではなく「学修」が適切ということにもなる。中央教育審議会（2012年）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」、2頁参照。
- [3] 別の調査（杉谷祐美子（2014年）「私学高等教育研究所より」、教育学術新聞『アルカディア学報』556号）でも、平均履修コマ数は1年生で13.5、3年生で9.6という数字が示されており、本学学生の平均履修コマ数が特に多いわけではない。
- [4] 別の調査（埼玉大学教育機構（2012年）「学生の学習に関する実態調査報告書」、9頁）でも、オ

フィスアワーの一人当たり平均利用回数は「0.3回」となっており、本学学生だけがオフィスアワーの利用が少ないというわけではない。

- [5] 先の調査（前掲、杉谷「私学高等教育研究所より」）でも、約3分の2の学生は「授業の予習・復習や課題をやる時間」は「1～2時間」以下と回答し、約4分の3の学生は「大学の授業以外の自主的な勉強」は「1～2時間」以下と回答している。本学学生の1日の学修時間が、特別少ないということではない。
- [6] 先の調査（前掲、埼玉大学教育機構「学生の学習に関する実態調査報告書」、7頁）でも、授業欠席の理由として「朝寝坊」と「授業内容がつまらない」が上位にあがっている。
- [7] 2019年度の文部科学省の「全国学生調査」に関して「今の学生は授業に出るものの、自ら学ぶ時間は短い」という特徴が指摘されている（2020年6月18日付朝日新聞）。本学の学生の学修状況は、全国の学生の学修状況とほとんど同じだともいえよう。
- [8] 「単位取得のための最低限の勉強はする。それ以上はやらない」という学生に対し、勉強させることはある意味簡単である。実現可能性はともかく、「十分に時間と労力を費やして勉強しなければ単位の取得や好成绩は望めないという状態」（前掲、埼玉大学教育機構「学生の学習に関する実態調査報告書」、41頁）を作り出せばいいのである。

## Summary

The Analysis of the Progress of the Study Conditions of our Students (2014~2018)

Yasuharu Nakamura

We have tried the survey about the study conditions of our students three times. But they are now forced to study under the irregular conditions by Covid-19. So we decided to give up the fourth survey and try to analysis the progress of the study conditions by examining past three surveys. The conclusion of this paper is that the study conditions of our students are fundamentally unchanging—they make minimum study efforts to get necessary credits but do not make any more than them. We have to continue to teach them to get the habit of studying by using of information technologies.

**Keywords** study conditions, habit of studying, information technology

(2021年5月13日受領)

